

《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

*科目 No. 1413

科目概要記入欄

1. 開設大学名	広島工業大学			科目開講 キャンパス	サテライトキャンパス ひろしま	
2. 科目名	正式科目名	学外研修（グローバル化時代のものづくり技術者像）			クラス名	
	副題				配当年次	3年次
		受入学年	3年次以上			
	旧科目名					
	学問分野	番号	42	名称	国際関係	
	サテライトで開講される科目の科目群			A群	B群	
3. 担当教員名	長坂 康史（情報工学科 教授）					
4. 単位数	2単位		5. 開講学期	後期		
6. 開講期間 曜日・時間	28年 9月 24日（土）～ 29年 1月 21日（土） 土曜日 13:00～16:10 ※ただし、1月21日は13:00～14:30					
個別開講日	1回目 9/24	2回目 9/24	3回目 10/1	4回目 10/1	5回目 10/22	6回目 10/22
	7回目 11/26	8回目 11/26	9回目 12/3	10回目 12/3	11回目 12/10	12回目 12/10
	13回目 1/7	14回目 1/7	15回目 1/21	16回目 /	試験日	/
7. 基礎知識の有無	1. 「基礎知識を必要とする科目」（ <input type="checkbox"/> ） 2. 「基礎知識を必要としない科目」（ <input checked="" type="checkbox"/> ）					
8. 募集人数 （総授業定員）	10人 （40人）		9. 定員超過時の 選考方法	書類選考		

10. 科目内容・授業計画	<p>1. 目的 産業経済社会は今ものづくりにおいて、さらにグローバルに通用する製品と技術の発信、そして海外企業との連携が求められている。このような中、高いものづくり技術をもつ企業の多い広島で、あらたな海外事業に取り組むことができる人材の育成は急務である。 本講義では、多様化するグローバル産業経済社会に適応するため、海外実務経験者との討論を交えながら、グローバル人材としての素養を修得するとともに、海外事業展開を活発に行っている広島の「ものづくり」を中心とした現場で活躍できる力を修得する。</p> <p>2. 内容 本講義は、異文化コミュニケーション、海外ものづくり事情、海外文化事情、そして、海外現地研修の4部で構成される。また、講義は座学に偏らず、講師及び受講者を交えた討論や、グループワークなどの体験的な演習などを取り入れたアクティブラーニング手法によって知識を身に付ける。</p> <p>(1) 異文化コミュニケーション 広島の産業界が事業を展開している海外地域を意識し、中国を中心とした東アジアまたアセアン諸国などの文化的な事情を理解する。 また、異なる文化を持つ人びととコミュニケーションを図る上で知っておくべき知識について学ぶ。</p> <p>(2) 海外ものづくり事情 工学系分野における海外での事業展開を念頭におき、ものづくりをベースにしながら海外での勤務や現地の技術者との協同作業に必要な知識を学ぶ。</p> <p>(3) 海外文化事情 海外にある日本企業に勤務する現地職員また広島の大学に在籍する留学生を交え、討論を行いながら日本との文化の違いを理解する。たとえば、留学生から見た自国と日本の違いなどをテーマに、討論をとおして、それぞれの文化を理解するとともに、日本の文化についても再認識する。</p> <p>(4) 海外現地研修（希望者のみ・約1週間） 中国に事業展開している広島の企業の現地事業所を研修場所として、現場職員との積極的な意見交換、また、具体的な作業体験などを行う。</p> <p>3. 授業計画 第01回 ・ガイダンス 第02～04回 ・異文化に対する理解 ・異文化におけるコミュニケーション 第05～12回 ・海外ものづくり事情 - 自動車分野 - 電気電子工学分野 - 食品分野 - 建築分野 - コンピュータシステム分野 など ・ものづくりにおける海外事業展開 第13～14回 ・海外文化事情 - 海外企業の視点 - 留学生の視点 第15回 ・まとめ</p>		
11. 試験・評価方法	異文化コミュニケーション、海外ものづくり事情、海外文化事情の3テーマを総合的に理解し、グローバル化時代のものづくり技術者として応用できるかどうかを、全講義終了後に提出を求める最終課題により評価する。		
12. 別途負担費用	全講義受講終了後、海外現地研修として、中国で事業展開をしている地元広島の企業を訪問し、意見交換および作業体験などを行うプログラム(約1週間)への参加を希望することができる。なお、渡航費用の半額と現地での生活費については自己負担となる。		
13. その他特記事項	講義はサテライトキャンパスひろしまで実施する。 講師等の都合により、講義内容や担当者、授業順が変更となる場合がある。		
14. サテライト科目の 社会人受講について	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	否
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	否